

SI Opener シリーズ

食肉サプライチェーンは世界の健康に重大な脅威をもたらす

Sustainable Investing Expertise by
ROBECOSAM

- 食肉サプライチェーンは、動物福祉から二酸化炭素排出まで幅広い問題を内包
- ロベコのエンゲージメント・プログラムでは 4 つの主要分野の改善にフォーカス
- この 3 年間に改善は見られたが期待を下回る分野も存在

新型コロナウイルスの感染拡大が「生鮮食肉市場」のリスクを浮き彫りにしましたが、健康被害のリスクを伴うのはそれだけではありません。食肉サプライチェーン全体が世界の健康に脅威を与えています。以前にも、豚インフルエンザや狂牛病が問題化しましたし、今後も、他の疾患や、抗生物質の過剰利用に起因する薬剤耐性の問題等に直面することはほぼ確実です。また、食肉サプライチェーンは、動物福祉の問題や加工工場における賃金、健康、安全性の問題も内包するほか、森林破壊という形で気候変動の原因の1つにもなっています。これらの問題はパンデミック危機の下で注目されるようになりましたが、決して新しい問題ではなく、ロベコが長年にわたって食肉サプライチェーン関連企業とのエンゲージメントを進めてきたのもそのためです。

これらは社会や環境に対する問題であると同時に、対応を誤るとビジネスに実害をもたらす問題でもあります。感染急増に伴い閉鎖を余儀なくされた食肉包装工場の事例に象徴されるように、パンデミック危機下におけるビジネスへの影響が注目を集めました。ビジネスにインパクトをもたらすのはそれだけではありません。

環境負荷が高い工業的畜産は気候変動の主要因の1つになっており、規制や財務の点で監視強化の可能性

Article
機関投資家向け
2021年3月

Masja Zandbergen、Peter van der Werf



が高い業界であるため、業績に悪影響が及ぶことも想定されます。

もっとも、悪い話ばかりではなく、新しいスタイルの農業がもたらす機会を収益に結び付ける企業も見られます。ただし、羊や山羊が初めて家畜化された 11,000 年以上も前から歴史があるこの業界には、イノベーションの促進が必要です。

食肉サプライチェーンに対する過去 3 年間のロベコのエンゲージメント

エンゲージメント

2016~2019 年に、
4 大陸の 16 社に対し
エンゲージメントを実施

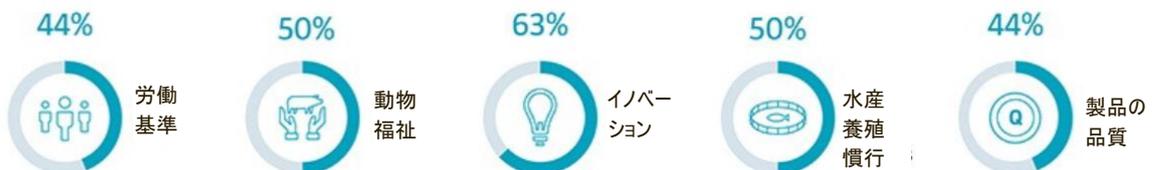
対象企業の主要事業:

- 特殊化学品
- ◆ 食肉加工
- ファーストフード/食料品チェーン
- ▼ 食品製造



重点分野

3 年間で対象企業 53%において
エンゲージメント成功



1960 年代以降、食肉消費量は指数関数的に増加

食品の消費や生産パターンは、人間と地球、双方の健康に決定的な影響を及ぼします。人口増加、富の拡大、気候変動は、今後数年間に世界のフードシステムに多大な影響を与える要因の 1 つです。1960 年代以降、鶏肉、豚肉、牛肉を中心に、食肉の生産量は指数関数的とも言えるペースで増加してきました。

2014 年時点では、食肉の 1 人当たり年間平均消費量は、全世界では 43 kg 程度でしたが、欧州と北米ではそれぞれ 80 kg、110 kg と、世界平均の 2 倍を超える水準に達しています。人口、所得水準、都市化率が欧米に近づくなかで、食肉や畜産物に対する需要が拡大基調にあることから、世界平均は増加する見通しです。

推計によると、農業は、世界の産業の中でも温室効果ガスの排出量が 2 番目に大きいセクターです。一頭の牛からは、年間平均 85 kg のメタンガスが排出されています。排出量を削減し、健康を増進させ、より多くの人の食糧を確保するためには、2030 年までに国連の持続可能な開発目標 (SDGs) とパリ協定の要件を満たす、早急かつ大胆な改革を実行する必要があります。

主な課題とロベコが期待する改善点

天然資源の有限性、大規模生産が環境に与える影響、家畜の薬剤耐性により動物由来の疾患がヒトに拡大することに伴う健康被害など、食肉生産セクターは深刻な問題に直面しています。また、一般に消費者の食肉過剰摂取に起因する健康上の懸念も生じています。

ロベコのエンゲージメント・プログラムにおいては、動物福祉、労働基準、製品の品質・安全性管理、イノベーションから構成される、指標の枠組みを構築しました。

動物福祉: 企業は、動物福祉方針において、日常的な切除 (mutilation)、飼養密度の高さ、屠殺前の気絶処理 (スタニング)、家畜の長距離輸送、成長過程における抗生物質の投与など、さまざまな課題を網羅することが求められます。また、全ての地域や、サプライヤーとの関係、下請け業者も対象とする必要があります。ロベコでは、ガバナンスとマネジメント、リーダーシップとイノベーション、実績報告とインパクトという、大きく3つのパラメータにおいて、企業の取り組みを評価します。

労働基準: 企業が公正な労働条件を尊重する方針を整備しているかどうかを調査します。また、同方針において、自社とサプライヤーの業務が双方とも対象となっているか、幅広い労働問題が網羅されているか、方針を確実に順守するためのプロセスがカバーされているかを精査します。さらに、企業のモニタリング体制や従業員の健康増進のための健康及び安全性に関するイニシアティブについても検討します。

製品の品質・安全性: 食肉の加工会社と小売企業が、品質と安全性に対する顧客からの高い期待に応える製品を提供するために、どのような措置を講じているかを評価します。各社に対して、食肉製品の原産地が確認可能なトレーサビリティ・システムの導入や、詳細な食品表示の採用を求めています。特に、認証を受けた製品やオーガニック製品が望ましいと考えます。また、企業が適正製造基準 (GMP) やその他の製造プロセス関連基準に従うよう求めています。このほか、肉の摂取量削減を目指し、肉食が健康に与える影響に関する顧客教育に取り組むことを期待します。

イノベーション管理: 同業界においてイノベーションの機会が見込まれる分野は以下の通りです。

- 抗生物質の代わりにプロバイオティクスを飼料に添加するなどの革新的なソリューションを提供する特殊化学分野 (動物用飼料製造業者)
- 業務上の健康・安全性リスクの削減を目指した食品加工設備のオートメーション
- 顧客ニーズの変化に合わせて、ファーストフードのレストランや小売店の市場も変化の過程にある。商品ポートフォリオの多様化への積極的な取り組み、店舗やフランチャイズにおける消費者意識プログラムの実践が期待される。

このエンゲージメント・プログラムでは、森林破壊の阻止を公式な目標としては設定していません。とは言うものの、このテーマに関して、ロベコでは過去数年間に、企業及び国 (ブラジル) をも対象とするエンゲージメントに取り組んできました。今後もこのテーマは引き続き懸念すべき課題であり、エンゲージメントを続けていくこととなるでしょう。

企業の取り組み評価に役立つイニシアティブ

ロベコでは、2016年にこのエンゲージメント・テーマを選定、開始した際に、英国を拠点とする機関投資家の畜産業関連調査グループである「Farm Animal Investment Risk and Return (FAIRR)」、および「Business Benchmark for Farm Animal Welfare (BBFAW、家畜福祉のためのビジネス・ベンチマーク)」と共同でラウンドテーブル会議を開催し、食肉と魚肉のサプライチェーンの変化に付随するリスクと投資機会について議論しました。

両者は、ロベコのリサーチ活動の指針として極めて有益なイニシアティブでした。企業との対話の指針となる、しつかりとした指標の枠組みを構築する上で、ラウンドテーブル会議は非常に有意義でした。さらに、食肉サプライチェーン関連の諸問題に対する企業の対応についてリサーチする上で、「栄養へのアクセス指数 (Access to Nutrition Index)」や国連責任投資原則 (PRI) の「森林破壊ベンチマーク」は有益な情報源となりました。

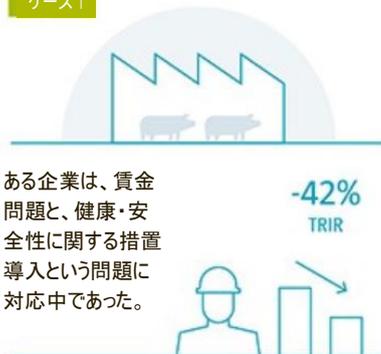
同エンゲージメントに関する結論

このエンゲージメントでは、バイオサイエンス企業から(食肉)加工会社、食品製造会社、小売企業に至るまで、食品のサプライチェーン全体にわたる企業を対象としました。最高水準の成果を上げたのは、北欧諸国の企業や米国のファーストフード企業などでした。

これらの企業は、「カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト (CDP)」への参加や、ブラジル・セラード地域の森林破壊ゼロを宣言する「セラード・マニフェスト (Cerrado Manifesto)」への署名をはじめとする行動や情報開示、科学に基づく目標 (SBT) 設定やその他の取り組みを行ってきました。これらは、サステナビリティに対するコミットメントと、この3年間に継続的な改善を目指して講じてきた施策の証左といえるものです。

これに対して、ブラジル企業とのエンゲージメント・プログラムは、ほとんどの目標において同業他社に大きく遅れをとっており、効果がないという結論で終了しました。ロベコでは、これらの企業がこのテーマにおいて成果を上げることが期待しており、当該企業への投資を継続する限り関与していく方針です。

ケース1



ロベコによるエンゲージメントの結果、同社は着実の方針転換を果たし、頑強な監査体制を導入することによって、健康リスクの低減に成功した。その結果、TRIR (労働災害統計指標) は業界平均を下回った。

ケース2



同社はサプライヤーに対するサステナビリティの要件を向上させ、売上の 82% が持続可能な開発目標 (SDGs) のいずれか 1 つに適合していると報告。



重要事項

当資料は情報提供を目的として、Robeco Institutional Asset Management B.V. (以下“ロベコ”)が作成した資料をロベコ・ジャパン株式会社が翻訳したものです。資料中の個別の金融商品の売買の勧誘や推奨等を目的とするものではありません。記載された情報は十分信頼できるものであると考えておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。意見や見通しはあくまで作成日における弊社の判断に基づくものであり、今後予告なしに変更されることがあります。運用状況、市場動向、意見等は、過去の一時点あるいは過去の一定期間についてのものであり、過去の実績は将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。また、記載された投資方針・戦略等は全ての投資家の皆様に適合するとは限りません。当資料は法律、税務、会計面での助言の提供を意図するものではありません。

ご契約に際しては、必要に応じ専門家にご相談の上、最終的なご判断はお客様ご自身でなさるようお願い致します。

運用を行う資産の評価額は、組入有価証券等の価格、金融市場の相場や金利等の変動、および組入有価証券の発行体の財務状況による信用力等の影響を受けて変動します。また、外貨建資産に投資する場合は為替変動の影響も受けます。運用によって生じた損益は、全て投資家の皆様に帰属します。したがって投資元本や一定の運用成果が保証されているものではなく、投資元本を上回る損失を被ることがあります。弊社が行う金融商品取引業に係る手数料または報酬は、締結される契約の種類や契約資産額により異なるため、当資料において記載せず別途ご提示させて頂く場合があります。具体的な手数料または報酬の金額・計算方法につきましては弊社担当者へお問合せください。当資料および記載されている情報、商品に関する権利は弊社に帰属します。したがって、弊社の書面による同意なくしてその全部もしくは一部を複製またはその他の方法で配布することをご遠慮ください。

商号等: ロベコ・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2780 号
加入協会: 一般社団法人 日本投資顧問業協会